

中学校特別活動

1 中学校特別活動の指導と評価について

(1) 特別活動の評価の改善について

- ① 各学校で十分満足できる活動の状況、いわゆる、生徒のどのような姿を目指すのかを検討し、共通理解を図った上で、その取組を進めることが大切である。
- ② 生徒の自己肯定感や生活や学習への意欲を高めるための評価であり、生徒一人一人のよさや可能性などを積極的に評価することが極めて重要である。
※ 国立教育政策研究所から出版されている参考資料に、どのように補助簿をつけるのか補助簿をどのように総括評価に結び付けるのか、教員同士の情報交換をどのようにするのかなどの具体例が明示されている。
- ③ 特活の場合には、学級担任以外の教師が指導する活動が多いことから、評価について共通理解を図って、生徒のよさや可能性を多面的・総合的に評価することが大切である。
- ④ 生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題を持てるようにする。そのためには、活動の結果だけでなく、活動の過程における、生徒の努力や意欲などを積極的に認めたり、生徒のよさを多面的・総合的に評価したりすることが大切である。

(2) 指導要録について

- ① 評価の観点については、全学年に共通したものを各学校で定める。
ア 例えば、「よりよい生活を築くための知識・技能」「集団や社会の形成者としての思考判断・表現」「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」のように、具体的に観点を示す。
イ 3年間の中で評価の観点が変更する場合を想定して、下の部分に余白をとっておくとよい。
- ② 目指す生徒に照らして、十分満足できる状況が見られた場合に、指導要録に○を付ける。その上で、総合所見及び指導上参考になる諸事項については、要点を箇条書きするなど、総合所見のところに記載する。

2 中学校特別活動における1人1台端末の活用について

(1) GIGAスクール構想のもとでの特別活動の指導について

- ① 特別活動の指導にあたっては、その方法原理である「成すことによって学ぶ」直接体験が基本であるが、指導内容に応じて、適宜コンピューターや情報通信ネットワークなど、適切に活用することによって、学習の場を広げたり、学習の質を高めたりすることができる。
- ② 特別活動の特質「集団活動、実践的な活動」の代替としてではなく、特別活動の学習の一層の充実を図るための重要な道具としてICTを位置付け、活用する場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的に活用することが重要である。
- ③ 学習過程全てでICTを活用することは難しい。学級活動の学習過程のどこか一つの場面でICTを活用するというようなところから始めるとよい。
ア 文書作成ソフトを活用し、まずは自らの生活を振り返る個人活動
イ 個人の学習活動から、その後、学習支援ソフトのコメント機能を活用し、相互評価を行い、仲間からコメントや励ましを共有
ウ 課題を絞り、課題解決に向けて、意見を出し合う活動
エ 原案をもとに、合意形成に向けて折り合いを付ける活動

3 キャリア教育の充実に向けて

(1) 学習指導要領総則に明記

- ① 児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。【見通し、振り返る活動】
- ② 児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科（科目）等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。【キャリア教育】

(2) キャリア・パスポートの活用

- ① 「今ある宝」いわゆる児童生徒が日々積み重ねている手帳や教科のワークシート、学校行事等の記録をこれまで以上に大事にしていくこと。それが、キャリア・パスポートの第一歩である。
- ② 小学校から高校まで、記録を持ち上げるために、学期や学年の単位での取捨選択や再編集が求められる。

(3) 「キャリア・パスポート」指導上の留意点

- ① 学級活動・ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合には、学級活動・ホームルーム活動の目標や内容に即したものとなるようにすること。
- ② 活動の記録のみに留まることなく、記録を用いて話し合い、意思決定を行うなどの学習過程を重視すること。

「キャリア・パスポート」の学年・校種間の引き継ぎについて

- 「キャリア・パスポート」の学年間の引き継ぎは、原則、教師間で行うこととしており、また、校種間の引き継ぎは、原則、児童生徒を通じて行うこととしているので留意すること。
- 小・中学校においては、進学先への確実な引き継ぎに留意すること。特に中学校から高等学校への引き継ぎなど、学校設置者が異なる学校への引き継ぎの場合は、特に配慮を要すること。
- 中・高等学校においては、令和3年度入学者に対して「キャリア・パスポート」を提出させるとともに、自校のキャリア教育への活用を図ること。
- 高等学校においては、卒業生が「キャリア・パスポート」を以降のキャリア形成に活用できるように、確実に本人に返却すること。（高等学校に進学しない中学生も同様。）

令和3年2月19日 文部科学省初等中等教育局児童生徒課

4 中学校特別活動「学習過程」（例）

(1) 学級活動(1)学級や学校における生活づくりへの参画

①問題の発見・確認→②解決方法の話合い→③解決方法の決定（話合い活動で具体化された解決方法等について「合意形成」を図る。）→④決めたことの実践→⑤振り返り→[次の課題解決へ]→①

(2) 生徒会活動

①問題の発見・確認、議題の設定→②解決に向けての話合い→③解決方法の決定（解決方法や活動内容についての「合意形成」、生徒総会で解決方法への賛否の表明、議決）→④決めたことの実践→⑤振り返り→[次の課題解決へ]→①

(3) 学校行事

①行事の意義の理解→②計画や目標についての話合い→③活動目標や活動内容の決定（活動目標や計画、内容について「合意形成」や「意思決定」を図る。）→④体験的な活動の実践→⑤振り返り→[次の課題解決へ]→①

5 参考となる資料等について

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校特別活動

(国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月)